新旧対照表

頁	変更後（令和７年12月一部改訂版）	変更前（令和６年３月策定版）
97		

変更後（令和７年12月一部改訂版）

【基本目標１】
地域公共交通ネットワークの維持・確保

【事業 1-3】
コミュニティバスの AI オンデマンド化（需要に応じた運行体系）

①目　的

- コミュニティバスの利用者ニーズへ対応するため、コミュニティバスの AI オンデマンド化を検討する。

②内　容

- 現在、コミュニティバスは、自家用車への依存をはじめ、運行ルートや利用方法等の情報不足を理由に利用者が少なく、年々減少傾向にある。買物や通院など、普段の外出機会は多いにもかかわらず、このような状況に置かれているのは、利用者のニーズに対応しきれていないことが考えられる。
- そこで、この状況をフォローするためには、現在の定時定路線型ではなく、区域運行で網羅する必要があり、さらに利便性向上を図るためには近年の AI や ICT 等の公共交通に関する多様なデジタル技術を活用することが有効であることから、AI デマンドシステムの導入を検討する。
- 導入検討にあたっては、交通空白地域を解消するため、中間市内全域を対象範囲として運行を開始し、運行後に明らかとなった課題等への対応及び検証を行い、事業の改善を図ることとする。

■AI オンデマンド型乗合交通の概要

乗りたいときに行きたい場所まで自由に移動できるオンデマンド型公共交通システム。複数の利用者からリアルタイムに発生する「乗降リクエスト」に対して、AI（人工知能）を使い最適な運行ルートを決定するため、乗合をしつつ、概ね希望時間どおりの移動が可能となり、効率的な運行が

③実施主体とスケジュール

事業	実施主体	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年	2027 (R9)年	2028 (R10)年
コミュニティバスの AI オンデマンド化	中間市 コミュニティバス事業者	検討				
				運行開始		

変更前（令和６年３月策定版）

【基本目標１】
地域公共交通ネットワークの維持・確保

【事業 1-3】
コミュニティバスの AI オンデマンド化（需要に応じた運行体系）

①目　的

- コミュニティバスの利用者ニーズへ対応するため、コミュニティバスの AI オンデマンド化を検討する。

②内　容

- 現在、コミュニティバスは、自家用車への依存をはじめ、運行ルートや利用方法等の情報不足を理由に利用者が少なく、年々減少傾向にある。買物や通院など、普段の外出機会は多いにもかかわらず、このような状況に置かれているのは、利用者のニーズに対応しきれていないことが考えられる。
- そこで、この状況をフォローするためには、現在の定時定路線型ではなく、区域運行で網羅する必要があり、さらに利便性向上を図るためには近年の AI や ICT 等の公共交通に関する多様なデジタル技術を活用することが有効であることから、AI デマンドシステムの導入を検討する。
- 導入検討にあたっては、まずは現在コミュニティバス（フレンドリー号）が運行している中間南校区等、小エリアで実証運行を行い、そこで明らかとなった課題等への対応を図りつつ、段階的にエリアを広げ、検証しながら進めていくこととする。

■AI オンデマンド型乗合交通の概要

乗りたいときに行きたい場所まで自由に移動できるオンデマンド型公共交通システム。複数の利用者からリアルタイムに発生する「乗降リクエスト」に対して、AI（人工知能）を使い最適な運行ルートを決定するため、乗合をしつつ、概ね希望時間どおりの移動が可能となり、効率的な運行が

③実施主体とスケジュール

事業	実施主体	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年	2027 (R9)年	2028 (R10)年
コミュニティバスの AI オンデマンド化	中間市 コミュニティバス事業者	検討・実証運行				

新旧対照表

頁	変更後（令和７年12月一部改訂版）	変更前（令和６年３月策定版）
100		

変更後（令和７年12月一部改訂版）

【基本目標２】 新たな技術の活用等による地域公共交通の利便性向上	【事業 2-2】（再掲） コミュニティバスの AI オンデマンド化（利便性向上に向けた効率的な運行）

①目　的

- コミュニティバスの利便性向上のため、コミュニティバスの AI オンデマンド化を検討する。

②内　容

- 現在、コミュニティバスは、自家用車への依存をはじめ、運行ルートや利用方法等の情報不足を理由に利用者が少なく、年々減少傾向にある。買物や通院など、普段の外出機会は多いにもかかわらず、このような状況に置かれているのは、利用者のニーズに対応しきれていないことが考えられる。
- そこで、この状況をフォローするためには、現在の定時定路線型ではなく、区域運行で網羅する必要があり、さらに利便性向上を図るためには近年の AI や ICT 等の公共交通に関する多様なデジタル技術を活用することが有効であることから、AI デマンドシステムの導入を検討する。
- 導入検討にあたっては、交通空白地域を解消するため、中間市内全域を対象範囲として運行を開始し、運行後に明らかとなった課題等への対応及び検証を行い、事業の改善を図ることとする。

■AI オンデマンド型乗合交通の概要

乗りたいときに行きたい場所まで自由に移動できるオンデマンド型公共交通システム。複数の利用者からリアルタイムに発生する「乗降リクエスト」に対して、AI（人工知能）を使い最適な運行ルートを決定するため、乗合をしつつ、概ね希望時間どおりの移動が可能となり、効率的な運行が

③実施主体とスケジュール

事業	実施主体	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年	2027 (R9)年	2028 (R10)年
コミュニティバスの AI オンデマンド化	中間市 コミュニティバス事業者	検討				
				運行開始		

変更前（令和６年３月策定版）

【基本目標２】 新たな技術の活用等による地域公共交通の利便性向上	【事業 2-2】（再掲） コミュニティバスの AI オンデマンド化（利便性向上に向けた効率的な運行）

①目　的

- コミュニティバスの利便性向上のため、コミュニティバスの AI オンデマンド化を検討する。

②内　容

- 現在、コミュニティバスは、自家用車への依存をはじめ、運行ルートや利用方法等の情報不足を理由に利用者が少なく、年々減少傾向にある。買物や通院など、普段の外出機会は多いにもかかわらず、このような状況に置かれているのは、利用者のニーズに対応しきれていないことが考えられる。
- そこで、この状況をフォローするためには、現在の定時定路線型ではなく、区域運行で網羅する必要があり、さらに利便性向上を図るためには近年の AI や ICT 等の公共交通に関する多様なデジタル技術を活用することが有効であることから、AI デマンドシステムの導入を検討する。
- 導入検討にあたっては、まずは現在コミュニティバス（フレンドリー号）が運行している中間南校区等、小エリアで実証運行を行い、そこで明らかとなった課題等への対応を図りつつ、段階的にエリアを広げ、検証しながら進めていくこととする。

■AI オンデマンド型乗合交通の概要

乗りたいときに行きたい場所まで自由に移動できるオンデマンド型公共交通システム。複数の利用者からリアルタイムに発生する「乗降リクエスト」に対して、AI（人工知能）を使い最適な運行ルートを決定するため、乗合をしつつ、概ね希望時間どおりの移動が可能となり、効率的な運行が

③実施主体とスケジュール

事業	実施主体	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年	2027 (R9)年	2028 (R10)年
コミュニティバスの AI オンデマンド化	中間市 コミュニティバス事業者	検討・実証運行				